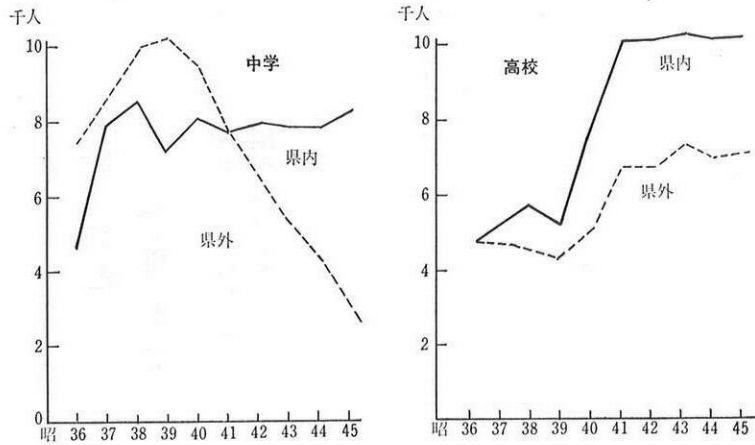


〈表3〉 労働力需給の見通し (単位:千人)

区 分	昭38就業者	昭45就業者	差引増減	期間中の死亡・離職	需要総数
総 数	785	798	13	157	205
第1次産業	360	312	△47	50	37
第2次産業	125	168	43	26	69
第3次産業	300	318	18	81	99

図2 新規学卒者の就職見通し



しては、本県の優秀かつ豊富な労働力を誇りとして、その維持培養と能力の開発および活用をはかり、県経済の発展を促進するよう行政をすすめる。

このため、次の主要施策を中心として、県内各産業の要求する労働力の確保と地域開発にともなう労働力の合理的な配置、ならびに職業訓練、技能検定の充実に、技能労働力の育成と水準の向上をはかり、雇用の安定を促進し、労働

### 労働力の確保と需給の調整

- ① 労働力の確保と需給の調整
- ② 職業訓練の拡充強化と技能検定の推進
- ③ 労働福祉の向上

### 職業訓練と技能検定

本県における県立職業訓練施設の整備状況は、表2のとおり、全国および新産業都市指定県に比べて訓練所数、訓練職種、定員などの点で充分ではない。また、技能検定も現在二九職種のみを実施しているが、さらに増加する必要がある。

さらに民間における事業内訓練も現在実施中のものは一〇団体一九職種、定員四四六名程度で低調である。なお、雇用促進事業団が荒尾市、西合志村に総合職業訓練所を設置し、専門訓練、炭鉱離職者ならびに中高年者などの転職訓練を実施している。



技能修得は明日の生活につながる

### 労働福祉

生産の担い手である労働者に対しては、基本的労働条件の向上ばかりでなく、職場、住居ならびに地域における環境を整備して、労働者の生活と生産活動が高福祉、高効率の関係に結びつくようになければならないが、本県では、これらの労働福祉面が先進地域に比べて立遅れていた。しかし、最近にいた

### 主要施策の方向

#### 将来の見通し

新しく学校を築立つ若人の大部分が、郷土の産業で安定した職業生活をいとなみ、経済・文化の発展など住みよい郷土の建設に夢と希望を抱くことができるようになることは、雇用行政の理想である。目標年次においては、まだこの理想に到達することは困難であるかも知れないが、実現可能な方向での接近に努力したい。しかし、雇用対策は、他の施策、すなわち地域開発、農業近代化などの施

〈表2〉 県立職業訓練施設の状況

区 分	訓練所数	訓練職種	訓練定員(人)
熊 本	4	13	410
新産指定県平均	7	28	918
全 国	6	26	904

注) 昭39.4現在。  
(資料) 労働省調べ

策の達成がなければ進展しないものである。地域開発、なかでも新産業都市建設の実現は、雇用対策の面から強く要請されることである。これらの諸対策が計画の線にそって実現された場合の三八〇四五年七年間の労働需給は、表3のように推定される。

### 基本方針

わが国の産業・経済は、労働力需給の面から大きな変化の過程にあるが、県と

### 文化活動で明るい職場へ

球磨川をゆうは川とよんだ万葉の言葉にちなんで夕葉文庫というのがある工場にある。ゆうはとは木綿葉、つまり手書き紙などの意味らしい。この文庫、戦前からの伝統も古く、郷土史料を含めて現在庫千八百冊。従業員はもろろん、部外の利用もかなり多い。一方、社宅の主婦たちでつくっている読書会では、夕葉文庫をフルに利用している。八代市立図書館長の田辺さんと呼んで、研究会に余念がない。研究会といえば、夕葉文庫の主任である岩本さんは八代市周辺の史跡め

#### 十糸製紙八代工場

の程が展示され場内の話題を呼んでいる。こういった従業員の文化活動が幅広く継続的に展開されている一つの原因は、文庫の運営と同時に広報委員会の組織的な動きによるところが大きいようだ。

### 雇用対策の審議

条例による雇用対策審議会、法に基づく職業安定審議会を通じて広く世論を聞き、学識経験者のえい知を結集して、総合的な雇用対策を検討し、就業構造近代化のための具体的な施策を推進する。

### 雇用計画の策定

将来における労働力需給の長期的見通し、さらに県内地域別あるいは年次別の需給計画を策定し、産業間地域間の労働流動、非労働力からの労働力化、学卒労働

### 企業の育成と誘致による雇用需要の増大

県内企業の体質改善による雇用の増加と、労働集約的企業の誘致による雇用機会の造成が必要である。このため、他部門と緊密な連携を保ち、労働力関係資料を整備提供して、企業誘致の側面的援助と安定した質量の労働力供給をはかる。

### 対立時代

いつの時代においても、青年の果す役割は大きい。それなりに青年は永い歴史と伝統を持ち、地域社会のために尽し、かつ期待にこたえてきているといえよう。とはいっても、青年の自己研修や錬磨が絶えず行なわれなければ正しい活動も遂行でき得ないのである。それと同時に政治的影響から組織をまもることが大切ではないだろうか。左右の対立感情が、或はイデオロギーの争いが持ち込まれてきつつある現在、私たちはこの際、いまだ一度青年団運動の在り方について検討してみる必要があるのではなからうか。左右の対立感情が青年団の内部に持込まれた結果による運

動の分裂、ひいては大人と青年との間の溝……。

杉本三郎

（県青年団協議会会長）  
充分ではないと思われる。大人と青年の対立、青年団内部の対立等々、こうした数々の対立を少しづつ取りのぞくのが青年団活動の一つの重点でもあり、そのことが人づくりのための精神的な環境づくりではないかと考えるのである。